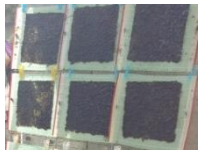
平成３１年２月２８日（木）発行　第128号

ヘルシースクールだより

市川市教育委員会　学校教育部　保健体育課

行徳の海の恵みを食べよう！



本市で策定した「市川市食育推進計画(第３次)」に基づき，「食育」の一環として，小学校中学年を対象に「ノリすき体験」が行われています。この活動は，市役所の地域整備課と生産者・消費者・小売業者等から構成される「魚食文化フォーラム実行委員」の協力のもと，水産業と食への理解や関心を深め，本市の地場産物である「市川のノリ」を多くの人に知ってもらうことを目的に，毎年行われているものです。今年度は 26 校の希望校の中から抽選で 15 校、1,599 名の児童が体験予定です。

当日の朝，市川の海で採れた生海苔を，寒空の中，昔ながらの手法で漉く体験をしながら，磯の香りを感じたり，ノリの乾くときの音を感じたりするなど，子どもたちはとても貴重な学びをしています。このような体験を経て口にする海苔の味は，どの子にも格別なものとなっているようです。

障がい者スポーツ体験授業を通して

２月 26 日(火)，大和田小では、2020 年東京パラリンピック視覚障がい柔道(73 kg級)の代表入りを目指す，**石橋　元気　選手**をお招きしました。初めに，３・４年生を対象に「障がいを通して学んだ事」をテーマにご講演いただきました。石橋選手は，小学１年生の時に視野が徐々に狭くなる先天性網膜色素変性症と診断されたそうです。病状を知りくじけそうになったこと，高等視覚特別支援学校での全盲の友達との出会い，視覚障がい柔道との出会いなど，ご自身の体験を熱く語ってくださいました。「目が見えないことは関係ない。目が見えていなくてもできることがある。」という強い思いで様々なことに挑戦し続けている石橋選手の話を，子どもたちはしっかりと受け止めていました。講演に続き３年生が，パラリンピックの正式種目でもある「ボッチャ」を体験しました。石橋選手と声を掛け合ったり得点を喜び合ったりする体験は，心を通わせる素敵な交流となりました。また，活動後の交流給食では、教室までご案内する際に，子どもたちが石橋選手に対して，階段の手前で「階段があります。」とさりげなく声をかける姿や，笑顔で質問する姿などが数多く見られました。

石橋選手との出会いは，子どもたちにとってかけがえのない体験になったと同時に，パラリンピックへの関心を更に広げることができる貴重な時間となったようです。

子どもたちの「できた」の笑顔を増やしたい！

小学校現場において，「体育の授業をどのように進めたらよいか。」ということを悩まれている先生も少なくないのではないでしょうか。特に若年層の先生方にとっては，国語科や算数科など，多くの教科には教科書があり，それに付随した指導書があり，授業を組み立てる上での道標となるものがあるので，指導計画が立てやすいのに対し，体育科にはそれが無いため，悩みの種の一つとなっていると…。

そんな先生方へ。「体育科教育研究サークル」をご存知でしょうか。平成 22 年１月に，当時「体育の授業マイスター」であった，**千島　良二　先生**（前市川小教頭）が起ち上げられ，実技研修や授業分析等を重ねてきている研修会で，これまで 66 回開かれました。参加者は市内の先生方はもちろん，市外の先生方も参加され，参加者の中には体育指導に不安や悩みを抱えている先生方もいます。

67 回目を迎えた２月 14 日(木)，本サークルの代表である千島先生を講師として，「マット・跳び箱運動」についての実技研修が行われました。当日は，30 名の先生方の参加がありました。夕刻の冷え込む体育館で行われましたが，参加者はうっすら汗をかくほどの運動量のある実技研修会でした。講師の千島先生の子どものつまずきや効果的な声掛けの仕方，タイミングなど，要所でポイントを押さえながらの実技指導は，とてもわかりやすく，丁寧であり，参加者の先生方の良き財産となったことと思います。

本年度の活動は終了となりましたが，次年度もできるだけ多くの機会を設けていきたいとのことですので，足を運んでみてはいかがでしょうか。

最後に。「指導方法を知っているかそうでないかで，子どもたちへの指導内容は大きく変わる。算数でかけ算を教える際に，かけ算ができるようになるために，色々なスモールステップで，子どもたちに指導するように，体育の指導内容も，子どもたちができるようになるために，どのような指導をしたらよいかを考え，指導方法の工夫をしてほしい。かけ算をいきなりやらせるような指導方法をする先生はいないが，いきなり跳び箱で台上前転をやらせるような授業は残念ながら見受けられる。」千島先生の本研修会の結びの言葉です。この言葉の中に，体育指導に不安や悩みを抱える先生方への答えにつながるものがあるのではないでしょうか。